

福田寺だより

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七
飯田山 恒福 田 土守
住職 橋本尚信

千年桜 エドヒガン 植栽

桜守 金田聖夫さん

さとしお

山形県置賜地方は不思議なところで、千年を超えて花を咲かせる桜が四本、五百年以上なら十本を数える桜が存在しています。なぜこんなに長く生きられるのか謎のままです。当然ながらこの地方は、日本でも有数の桜の名所であり、桜フワンなら一度は足を運びたいところです。中でも千三百年生き続け今も花を咲かせるという『薬師桜』の直ぐ近くに

金田聖夫さんは住んでいます。「日本さくら会」に七人いる『さくら専門委員』の一人、いわゆる桜守です。今年の春、住職はこの人に会いに山形まで行ってきました。「さあ、どうぞ、足を入れてください」玄関入ると直ぐの部屋に布団の掛かった電気コタツがあり、訛り言葉で優しく迎えてくれた。テーブルの上にお茶の急須と漬け物。奥さん

が、絶妙のタイミングでお茶を継ぎ足してくれる。

金田さんは、本業は農家ですが減反政策もあり農業だけでは立ち行かず、若い頃は出稼ぎで神奈川県にも来ていたようです。さくらとのつき合いは、仕事が一段落して地元に戻ってからで約二十年だそうです。

自分が生まれ育ったところに千年を超えるさくらがあることを、あらためて感じ、その保存育成をしなければならぬと、樹木医の先生の指導を受けながら、地元の間と研究を始めたとのこと。初めのうちは失敗ばかりで試行錯誤の結果、数年後に苗の育成に成功されたようです。

さて、福田寺にこのさくらを植えようと思いついたのは、檀信徒の皆さんに、福田寺には永遠のいのちを持ったさくらがあり、自分たちの子々孫々を見つめてくれているのだと感じてほしいという願いからであります。

◇ お大師様（真言宗）のこと ◇

最近は自分の菩提寺が何宗なのかなど関心が無い世代が増えているようです。それだけ寺離れが進んでいることかと思いますが、寺離れと言っても、実のところ若い世代の人たちが寺の何から離れていこうとしているのか、正しく検証する必要があります。逆にお寺は何をしてきているのか？ 葬式仏教と言われるようになって久しいのですが、未だにそのままではないのか。少なくともお寺の宗旨の教えを発信することは、不可欠な気が致します。

福田寺の檀信徒の皆様は、福田寺の宗旨は真言宗で、真言宗の祖師は弘法大師（空海）であることは承知

していただいていると思います。しかしさて、その教えとなると首を傾げてしまうのでは無いでしょうか。今回は、真言宗の祖、『弘法大師・空海（お大師様）』について述べたいと思います。呼び名が色々ですが実名が『空海』、入定（八三四）後八七年して天皇より諡られた名が『弘法大師』、『お大師様』は弘法大師の尊称、『遍照金剛』は中国で密教の師である恵果和尚の灌頂に入壇した時いただいた名前です。生まれは、宝龜五年（七七四）六月十五日香川県多度郡屏風ヶ浦に地方豪族佐伯氏の子として誕生、幼名を真魚（まお）。十五才で新都・長岡

に上り勉学、十八才で大学に入る。

大学で学びながら、奈良の寺で仏教の師に触れる。当時の大学が儒教を主とした官吏養成機関であることに失望し、大学を中退。二十歳の時

和泉の槇尾山寺で出家。二十四才で出家の宣言書たる「三教指帰」を著す。成仏の書「大日経」の解釈を求めて三十一才で中国に渡り、密教の師恵果に出会い、即座に真言密教の法を全て受け継ぎ日本に帰朝。

嵯峨天皇から東寺を賜り、真言宗を立教開宗する。六十二才にて高野山に入定す。（次回はその教え）

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

* * * * *

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

恒例の新年厄除け護摩を一月八日

記

午後一時より修行致します。護摩を

焚く修行は、近年いろいろな所でさ

れています。正統に受け継がれて

いるのは密教寺院であります。福田

寺は、京都・東寺を本山とする真言

密教の寺で、創建以来八百七十年余

密教寺院としての歴史を刻んで参り

ました。

檀家以外の方でも勿論結構ですの

で、皆様お揃いで新年の護摩供養に

お参り下さい。

期日・・・一月八日、午後一時より

祈祷料・・・三千元

祈祷内容・・・厄難消除(厄よけ)

身体健全、病魔退散、家内安全、

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

学業成就、合格祈願、安産祈願、

子授け祈願、その他

申し込み・・・一月七日まで、電話可

電話 0465(36) 2755

FAX 0465(37) 6688

男性

平成二十一年厄年

前厄 昭和四十四年生まれ

本厄 昭和四十三年生まれ

後厄 昭和四十二年生まれ

女性

前厄 昭和五十三年生まれ

本厄 昭和五十二年生まれ

後厄 昭和五十一年生まれ

一元日祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職に

より新年の御祈祷が修法されま

す。ご自由に参拝ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、

暮れのお参りの時に、本堂入り

口に用意された納め場所に納め

て下さい。特に大きなものや、

燃えないものは、寺の者に連絡

してください。

年回のお告知りせ

来年度の年忌(年回)法要の

張り紙を本堂に掲げておきます

ので暮れのお参りのときに自分

の家の年忌を確認して下さい。

年忌に相当している場合、法要

の日取りを早めに連絡して下さい。